

IPアドレスポリシー策定団体 およびそのプロセスの紹介

2012年11月20日

Internet Week 2012 T8:インターネットの決めごと(標準、ポリシー、慣習)の
作り方を学ぼう

社団法人日本ネットワークインフォメーションセンター(JPNIC)

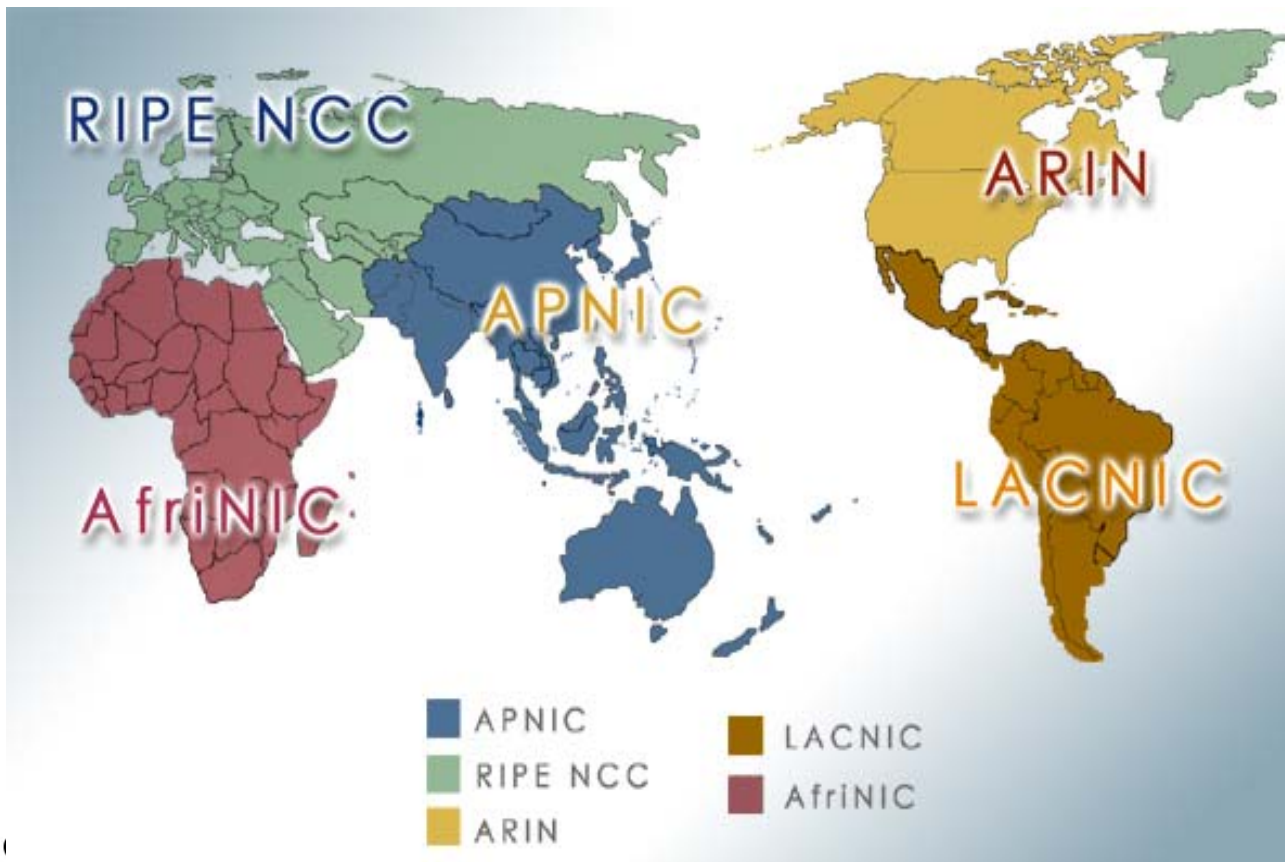
IP事業部 奥谷泉

自己紹介

- JPNICで「アドレスポリシー」に関わる調整を担当
- アドレスポリシーに関わる国外のフォーラムに平均年4回参加
- APNICフォーラムにおけるNIR SIGのChairも務めています

国外のアドレスポリシー策定フォーラム

- アドレスポリシーの策定には5つ地域でそれぞれフォーラムが運営されています
- RIR(Regional Internet Registries)単位



そもそもアドレスポリシーの策定とは？

- IPアドレスの分配・管理の方針や基準は利用者自身で定義している
- つまり、IPアドレスをどういう基準で分配するのは利用者が決めることができる
- 例えば、IPv4アドレスの枯渇に向けての分配方法も各地域のアドレスフォーラムで、参加者が定義した内容が反映されている

アドレスポリシー策定の基本精神

ボトムアップ

- 使う人たちで決める

オープン

- 誰でも参加が可能

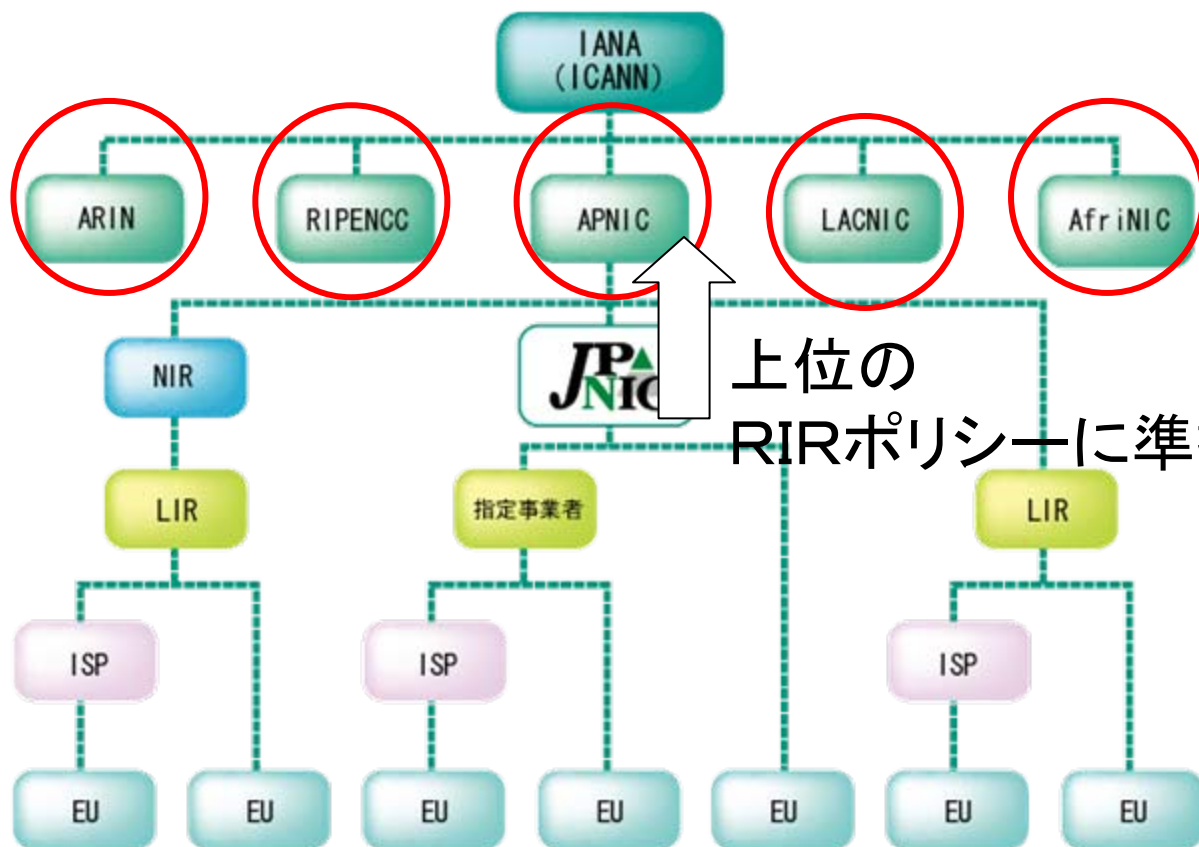
トランスペアレント

- 誰でも議論を参照できる

この基本精神に基づき、インターネットサービス、運用の実情に応じていつでも見直すことができる

アドレスポリシー策定の範囲

- 基本的にRIRのフォーラム単位でアドレスポリシーを策定



Global Policy
全RIRフォーラムでの
合意が前提

Regional Policy
各RIRフォーラム単位で
それぞれ定義

上位の
RIRポリシーに準拠

アドレスポリシーフォーラムとは

- IPアドレスポリシーについて参加者誰もが提案・議論をできるオープンなフォーラム
- 各地域のRIRが運営し、年に2回のミーティングとメーリングリストにより構成されている
- 各RIRは、運営しているポリシーフォーラムの意見をそれぞれの地域におけるアドレスポリシーに反映して文書として公開、これに基づきIPアドレスの管理を行っている

各RIRフォーラムの特徴



- インターネットの基盤整備も含めて検討



APNIC

- 文化、言語、インターネットの発展度合いが最も多様



- 議論と提案が非常に活発



- 政府機関等とも連携しながら地域内のインターネットを引っ張っている



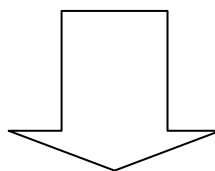
- 最も歴史が古く、運用コミュニティとの連携も強く、成熟している

アドレスポリシーフォーラムへの参加方法

- メーリングリスト
 - 誰でも登録可能
 - 議論のアーカイブも公開
- オンサイトミーティング
 - 開催地とホストは公募により選定
 - 費用さえ支払えば誰でも参加可能
- ポリシー提案は公募され、誰もがメーリングリスト、ミーティングにて議論に参加ができる

提案からポリシーまでの反映の流れ

- 提案の公募
- 提案に関するメーリングリストでの議論
- ミーティングでの提案の発表・議論
- 参加者の意志「コンセンサス」の確認
- Chair・Co-Chairによるコンセンサスの判断
- RIRによる施行判断



Chair、Co-Chair
も選挙で選出

- アドレスポリシーの施行

リモート参加も可能です

- ストリーミング
 - 音声、画像ともに参照可能
- トランクリプト
 - 発言内容をリアルタイムで文字で確認できる
- チャット
 - 指定方法でチャットに参加し、発言するとRIRスタッフが意見を会場で読み上げてくれる

APNICフォーラムの場合

- メールングリスト

- sig-policy@apnic.net
- <http://mailman.apnic.net/mailman/listinfo/sig-policy>

30以上の経済圏より参加

- ミーティング

- 2月頃と8月か9月頃の年2回開催
- 春のミーティングはAPRICOTと併催
- Policy SIGと呼ばれるセッションでアドレスポリシーを議論

春は約500名、夏は約250名の参加者

- ChairとCo-chairs

- 任期は2年
- Policy SIGで選挙

Chair



Andy Linton

Co-Chairs



山西正人



Skeeve Stevens

APNICカンファレンスの構成

- 通常、4～5日間
- Policy SIGはこのうち通常1日
- その他のプログラム
 - 各種トレーニング・チュートリアル
 - APOPS
 - 特定のテーマをとりあげたセッション(IPv6関連、インターネットガバナンス等)
 - BoF
 - APNIC Services、他レジストリからのアップデート
 - APNIC総会

例 : <http://conference.apnic.net/34/program>

議論の様子



セッションの合間

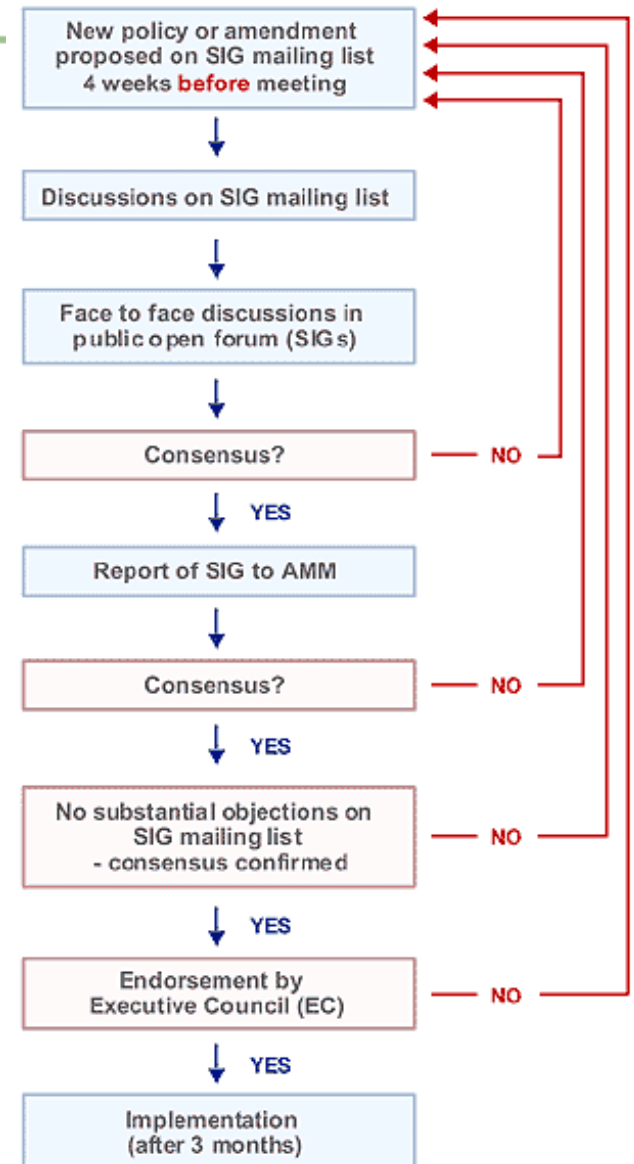


懇親会



APNICのポリシープロセス

- ポリシ提案はオンサイトミーティングの4週間までに提出
- 提案をメーリングリストに公示
- オンサイト議論
- コンセンサスは総会で報告され確認
- コンセンサスがメーリングリストに公示
- 理事会でエンドース
- ポリシの施行



<http://www.apnic.net/community/policy/process>

APNICとJPフォーラムの連携

- 国内にもJPOPFと呼ばれるポリシーフォーラムがある
- JPはアジア太平洋地域の一員として、APNICのポリシーに基本的には準拠することが求められるため、APOPfと連携しながらフォーラムを運営
- JPOPFでは国内の状況を踏まえた議論を実施し、その結果をAPNICフォーラムへフィードバック
 - APOPfでの提案に関する議論の共有
 - 国内の状況を踏まえたポリシー提案を策定し、APOPfでの提案

**JPOPFに参加することで、日本語で議論しながら
APNICフォーラムへの議論とも連携できます**

現在のポリシー策定で着目されているポイント

- IPv4 分配済のIPv4をどう効率よく再配分できるか
 - IPv4アドレス移転 RIR間の移転を認めるポリシーが整備されつつある
 - 新gTLDへのアドレス割り当ての方針についてARIN地域では10月に議論されていた
- IPv6 IPv6を導入するうえで必要となるIPv6アドレスは円滑に分配を受けられるか
 - 基本的な基準は整備されているが、運用上の実情に合わない部分のチューニングを随時している
 - 6rdのような移行技術、エンドサイトも分配を受けやすい基準の定義等

手始めに参加してみるには

- まずはMLに登録してみることからスタート
 - ミーティング開催情報や、提案への議論を確認できる
- リモートで参加してみる
 - 雰囲気や議論の様子が臨場感をもって体験できる
 - チャットでその場での発言も可能
- 小さなセッションでの発表からスタートしてみる
 - 提案を行うことにハードルを感じるけれど、発表はしてみたい方は、小さなセッションでの発表からスタートしてみる方法もある

APNICフォーラムは英語が母国語ではない人のほうが多いので、ゆっくり話してもらおうようにお願いしたらみんな快く応じてくれます 😊

各RIRフォーラムの情報

- AfriNIC
 - <http://www.afrinic.net/en/community/afrinic-events/events-archive>
 - <http://www.afrinic.net/en/community/email-a-mailing-lists>
- ARIN
 - <https://www.arin.net/participate/meetings/index.html>
 - https://www.arin.net/participate/mailling_lists/index.html
- APNIC
 - <http://meetings.apnic.net/>
 - <http://mailman.apnic.net/mailman/listinfo/sig-policy>
- LACNIC
 - <http://www.lacnic.net/web/lacnic/lista-de-discusion>
 - <http://www.lacnic.net/web/lacnic/lista-de-discusion>
- RIPE
 - <http://www.ripe.net/ripe/meetings>
 - <http://www.ripe.net/ripe/mail>

Q&A

